

=私たちの活動 4つの柱=  
\*制度化と指導員の身分保障  
\*専門性と仕事の確立  
\*父母と共に学童保育運動の発展  
\*全国の指導員との団結と連帯

建交労全国学童保育部会

## ニュース学童保育

2018. 2. 14.  
NO. 2 2  
全日本建設交運一般労働組合  
全国学童保育部会 発行  
編集：事務局

# 町田市、深刻な大規模問題

## 行政、全児童施策で代替の動き

### 大規模化の問題

町田市には42小学校、学童クラブは43か所あります。そのうち、100名以上在籍は14クラブ、80名以上は21クラブあります。

一つの学童クラブに複数の支援の単位を置いていますが、現在の施設に加え、増築や小学校の余裕教室を一時活用し、児童一人あたり1・65㎡の面積の確

保をして狭隘化している学童クラブの使用できるスペースを増やしています。

しかし、学童クラブと距離が離れている、使用する時間帯に制限がある等、実際活用するためには困難なケースがあります。

市は、各クラブ支援の単位で分かれていて（報告する書類上分けさせています。）大規模化は解消している、問題は狭隘化だけと言っ

ています。加えて受け入れの学年は変わらず小学3年生（障がいのある児童は小学6年生まで）であり、4年生以上の受け入れはできていません。

### 育成料の値上げ

一律月額6000円だった育成料を、2018年度より、月額9000円となります。

5段階の減免区分を設け申請をすれば減免の対象となりますが、多くの世帯は現在の育成料より値上げとなります。

また、育成料以外に、おやつ代（1

5000円/月）と、延長保育料（上限2000円/月）の実費があり、保護者負担は増大しています。（東京の三多摩地域での保護者負担額としては最高額）。

### 「新まちとも」の動き

町田市では、09年度より市内の小学校で「まちとも」という放課後の遊び場づくりを進める校庭開放の事業があります。

2016年度から名称を「新まちとも」と変更し、体育館や空き教室を活用して運営による学習活動や体験活動を行います。

42小学校のうち10校から開始し、徐々に拡大させ2021年度までに全ての小学校で実施する動きです。利用費用はかかりません。

「まちとも」は、シルバー人材の方々の見守り事業でしたが、「新

まちとも」は「運営協議会」（学校、自治会、PTA等で組織する）を発足し、各小学校のまちともの運営を行っています。市からの運営補助は年間各420万円程です。

また、学童クラブの退会届けの理由欄には「新まちともに行くから」という項目を入れ、学童クラブの児童も対象にしています。

以上の動きを総合して大規模化している学童クラブの児童を、育成料の値上げによる費用負担の増大により全児童対策である新まちともに移行させることで学童クラブの大規模の解消につなげていくねらいが推測できます。今後学童保育事業の役割をしっかりと保たれるように働きかけていく必要があります。

（町田分会

本山健太）

### スウェーデン、学童保育視察団 無事帰国

1月28日～2月3日、全国部会代表7人を含め、総勢14人でスウェーデンの学童保育視察に行ってきました。

全国部会の各支部、また中央委員会より視察のカンパ、中央本部においても財政的援助をいただき、ありがとうございました。

今月17日から開催される全国学童保育研究会で視察内容を報告します。

また、部会ニュースを通じて報告していきたいと思ひます。